

特別支援学級（難聴）

難聴とは、外耳から大脳までの間の音を伝える経路のどこかになんらかの障害があるために、聞こえが悪くなり、音の聞き分けも悪くなる状態をいいます。難聴学級は、補聴器等の使用によっても通常の会話における聞き取りが部分的にできにくい状態である子どもたちを対象に、中部西小学校と三重西小学校、中部中学校に設置しています。

難聴の子どもは、授業中、教師の声が聞き取りにくく、学習活動への取組みが遅れがちになります。また、友達との会話が思うようにできないため、いらだちと失望から情緒が不安定になることもあります。

このような子どもたちのために、難聴学級の教室は、集中して学習できるように、窓は外部からの騒音を防ぐ二重窓になっており、壁には吸音板が張ってあります。ほかにも、障害を補いながら分かりやすく楽しく学習できるように補聴援助システムや視聴覚教具の活用がなされています。

1 指導方針

聴覚に障害のある子どもたちは、話し言葉によるコミュニケーションに不自由があるため、授業の中では、聴き取りの不足を補う手だてを考えていきます。また、言葉の意味理解が不足している場合は、必要な経験を補充したり、震度を調整したりして、個に応じた指導を増やすこともあります。

通常の学級と難聴学級の担任は、絶えず連絡を取り合い、協力しながら指導にあたります。

2 指導内容

(1) 教科の学習

基礎・基本的な学力をつけるために、国語・算数（数学）・英語の教科は、難聴学級で勉強します。一人一人の障害や能力に合わせて、きめ細かい指導を行います。

(2) 自立活動

通常の学級の教科に加えて、聴覚の障害を背景とした生活・学習上の困難を主体的に改善・克服するための指導を行います。個々の実態に応じて、補聴器の扱い方、聞き取りや読話の訓練、言語力、表現力を伸ばすための個別指導、或いは人間関係作りに関わった指導を行います。

(3) 交流及び共同学習

健聴児とともに生活する中で、豊かな心とことばを育てることを重点に置いた教育をしています。難聴学級での学習時間のほかは、通常の学級で学習し、運動会・文化祭・遠足・社会見学などの学校行事も健聴児とともに参加します。